

とままえ

10

No. 662



風かおる
人が輝き
躍動するまち



まちひと百景

全国「馬の絵作品展」で佳作受賞!

北海道では唯一の全国展となる「馬の絵作品展」でこのほど、古丹別中学校3年の中村聡太くんと野村優太くんの2名が見事佳作に輝いた。

今春から苫前中学校に赴任した美術を指導する梅原賢伸教諭は、赴任中であった初山別中や羽幌中在籍時には多くの生徒を美術展などで入賞させた指導者である。

今回受賞された中村くんと野村くんは、「大変だったけどうまく描けた」と述べていた。

- 坂川黙音氏名誉町民章贈呈式ほか… 2
- チャリティーフェスティバルinとままえほか… 3
- 町民マラソン大会ほか… 4
- 穀類乾燥調製施設建設工事安全祈願祭ほか… 5
- 健康ばんざい… 6
- 国民健康保険ガイド… 7
- 国民年金… 8
- 学びの広場… 9
- 住まいる情報… 10～11
- 中学生ギャラリー… 12

まちの人口

人口/3,248人 (男/1,554人 : 女/1,694人)
世帯数/1,583世帯 (9月30日現在)



本町で6人目

元苫前町議会議長の坂川黙音氏が名誉町民に

9月22日(木)に名誉町民章贈呈式実施

元苫前町議会議長であった坂川黙音さんが名誉町民に選定され、9月22日(木)とままえ温泉ふわっとで名誉町民章贈呈式が行われた。

坂川さんは昭和58年5月に町議会議員に当選、以来連続5期20年町議会議員、平成7年からは2期8年間議長として、議会運営や町の発展に貢献した。このほか、町選管委員、教育委員、社会福祉協議会理事などを歴任している。

昭和30年にはニシン漁で多忙な保護者を支援するため寺院内に苫前季節保育所を開設、同38年に社会福祉法人苫前福祉会の認可を受けた。平成13年から昨年7月まで理事長を務め、児童福祉の充実のための環境整備にも功績が認められ、平成28年6月13日の町議会において満場一致の同意を得て、名誉町民の称号が贈られることが決まった。

本町の名誉町民

1	川村 秀治さん(故人)	元 苫前町長
2	瀬川 正一さん(故人)	元町議会議長
3	石井 秀弘さん(故人)	元町議会議長
4	名畑 隆雄さん	元 苫前町長
5	久保田徳満さん	前 苫前町長
6	坂川 黙音さん	元町議会議長

(上段より選定順)



この日の贈呈式・受章祝賀会には来賓などあわせて約130名が出席、森町長から名誉町民章が贈られたあと、森町長は「多年の労苦をねぎらい、広く町民にお祝いしてもらおうと開いた。これからも一層の力添えをお願いしたい」と祝辞を述べた。

阿部俊一町議会議長は「名誉町民を受章されるには家族の支えがあったからだと思う。シーフロントパークの整備、そして風を用いた大規模風力発電プロジェクトのほか、大型事業が建設される中、議会運営にもご尽力いただいた。町の誉れとして心に銘記していきたい」と祝辞を述べた。

花東や記念品贈呈の後、受章記念スピーチで坂川さんは「私は人情と温かい交流の中で育った。何とかこの恩を返したいと思ひ、管内第1号の福祉法人として認可を受けた。海水浴場、風力発電、ふわっとなど議会でも生かそうと進めた。生涯の思い出となった」と述べた。

本町の名誉町民は坂川さんで6人目となる。

牛乳消費拡大の一環でミルクストローなどを寄贈 ~もーもーみるく倶楽部~



町内の酪農家の女性で活動している「もーもーみるく倶楽部」が牛乳消費拡大の一環として毎年実施している「啓発物品」の寄贈を行った。

役場教育長室で行われた贈呈式では会員3名が来庁し、池田文敏教育長に牛乳を飲む際にストローを使うとチョコ味やバナナ味になるミルクストローやノートなどの町内の保育園児、小中学校児童生徒全員分の物品を寄贈した。

海難救助に向けて ~苫前救難所夏季訓練~



8月27日(土)苫前漁港内において、苫前救難所(川村信介所長)所員40名が海難救助のための技術向上に向け訓練を行った。

この日の訓練は遭難した船を想定してもやい銃の発射訓練や、海防水救センターより職員を派遣してもらい、救命胴衣の着用の仕方、や性能の比較の説明、心肺蘇生とAEDの使用仕方などの体験も実施された。

心肺蘇生やAEDの仕方については、知識はあってもなかなか手順通りにはいかないなど質問も出されたが、指導者からは「練習を繰り返しながら身体で覚えていってくださる」と実践的な訓練を真剣に行っていた。

飲み・食べ・ステージを楽しむ! ～チャリティーフェスティバルinとままえ～

今年で6回目となる大新東株式会社主催のチャリティーフェスティバルinとままえが9月4日(日)に開催された。会場内に募金箱を設置、集まった金額を町へ寄贈するものとしている。

会場内では歌手やよさこいチームによる演舞、子供によるダンスなどを楽しむとともに、北るもい漁協やJA苫前町による農水産物や加工品の販売、とままえ温泉ふわたとのエビバーガーなどが販売された。

また、恒例の大抽選会も行われ、羽毛布団や大新東グループの管理施設の宿泊券などが当たるとあって、真剣に抽選券を凝視していた。



北海道大学女子バレー部が苫前町で合宿



9月5～7日の3日間北海道大学女子バレー部が苫前町スポーツセンターを利用して合宿を行った。北海道大学女子バレー部は春季4部リーグを優勝して現在は3部に所属している。秋には、2部への秋季リーグもあり、練習に熱が入っていた。

また、6日(火)には、古丹別小学校9名と古中7名がサーブやレシーブの仕方など熱心に指導を受けていた。参加した本間愛梨さん(古小4年)は「とても勉強になる。繋げる時やレシーブが難しい」と述べていた。

ホタテ漁業の様子を見学 ～学社融合事業「ホタテ漁業体験」～

9月9日(金)に苫前漁港新港にあるホタテ漁業作業場で学社融合事業「ホタテ漁業体験」が、苫前小学校、古丹別小学校の3年生あわせて26名が参加し開催された。

講師は加藤漁業部の加藤孝幸さんと留萌北部地区水産技術普及指導所の密谷法行専門普及指導員ら2名が務めた。

ホタテをカゴに入れる体験では1人ずつ小さな容器からカゴに移し替えを行っていた。また、質疑応答では「ホタテの種類はどのくらいあるのか?」「ホタテの漁獲量はどのくらいあるか?」「ホタテの旬な時期はいつか?」などの多くの質問が飛び交っていた。



はまなす国体全道大会で古丹別ウイングスが惜しくも決勝で涙!



9月17～18日の両日に深川市で開かれた「はまなす国体記念第27回ふかがわ全道小学生バレーボール優勝大会」の混合の部で管内代表の古丹別ウイングスが初の準優勝に輝き、21日役場を訪問し森町長に報告した。

森町長は「優勝はできなかったけど素晴らしい成績でした。これからも頑張ってください」と激励した。

主将の檜森香月さん(古小6年)は「初めての出場準優勝はうれしい。でも悔しかった。来年度は全道優勝を目標にのぞんでほしい」と後輩に託した。

また、指導してきた宇野真嬉先生(古小)も「決勝は夢の舞台だった。これから糧になる」と振り返っていた。

雲間に青空、古丹別市街地を激走 ～第39回苫前町民マラソン大会～

9月11日(日)に公民館周辺で第39回苫前町民マラソン大会が、親子の部をはじめとする11部門に約150名の参加で開催された。この日の未明には雨が振り開催が心配されたが、本番ではまずまずの天候状況で実施された。

平成24年度から町体育協会の単独主催で行われている同大会では、苫前地区、古丹別地区を隔年で周回しており、今年は古丹別地区での開催であった。

スタートをすると、中学生のお姉さんをどんどん抜き去る小学生の女の子、1キをほぼ全速力でゴールに到達する子、親子の部では、沿道の声援をもらって、仲良く手を繋いでゴールするほほえましい光景も見られた。



種目	部門	氏名	タイム	種目	部門	氏名	タイム
1 km	親子の部	後藤 皓斗 後藤 博	4' 32"	3 km	小学5・6年男子の部	中村 海虹	12' 15"
	小学1・2年男子の部	小笠原大悟	3' 46"		中学生女子の部	清水 音寧	12' 49"
	小学1・2年女子の部	岡田 美波	4' 21"		一般男子の部	長谷川隆志	13' 39"
2 km	小学3・4年男子の部	中村 心煌	8' 55"	5 km	中学生男子の部	野村 優大	20' 17"
	小学3・4年女子の部	坂本あいか	11' 08"		一般男子の部	伊藤 充洋	21' 43"
	小学5・6年女子の部	村上 育海	9' 49"				

(各部門の第1位のみを掲載)
太枠内は大会新記録

これまでのご労苦をねぎらって ～平成28年度苫前町敬老会～



9月13日(火)公民館で平成28年度苫前町敬老会が開催され、町内に居住する高齢者約220名が参加した。

主催者の森町長は「人生の先輩の皆さんの教えをいただき、より良いマチをつくりたい」と挨拶、町老人クラブ連合会の小松谷悟会長(清水辰雄副会長代読)は「老人の特権だと甘えることなく、町民の一人として自ら動いていかなければならない。健康、友愛、奉仕の言葉のもと努力していく」とお礼を述べた。

この後、苫前婦人会などの舞踊、参加者によるカラオケ、苫前保育園、古丹別保育所園児によるお遊戯などの余興を楽しみながら、1日を楽しんだ。

町食生活改善協議会が特別養護老人ホーム苫前幸寿園を慰問、車いすの清掃作業を実施

町食生活改善協議会(間宮由紀子会長)が9月13日(火)特別養護老人ホーム苫前幸寿園を慰問、車いすの清掃を行うとともに、幸寿園入所者やデイサービス利用者との交流を行った。

間宮会長ほか3名が車いすの清掃を行った。石川裕一園長は「毎日キレイに清掃が行き届かなかつたりするので大変助かります」と代表してお礼を述べた。

この後、会員は「お体の調子はどうですか?」「暑くないですか?」などと入所者や利用者との懇談し、昔話に華が咲いていたようだ。



昔ながらの稲刈りに汗 ～学社融合事業「稲刈体験」～



岩見の花井秀昭さんの圃場で種籾蒔き・田植え・生育調査などを行ってきた苫前小学校・古丹別小学校5年生18名が9月21日(水)に稲刈体験を行った。

長靴姿で鎌を持った児童が田んぼの4分の一程度を昔ながらの方法で稲刈りを実施、30分程度ですべて刈り取った。

その後、花井さんの運転するコンバインに乗車させてもらい、現代の稲刈りを体験しその便利さを痛感していた。

児童からは手刈りはずいぶん大変だけど、コンバインはあつという間に刈り取ってしまったため楽しんだという感想を述べていた。

穀類乾燥調製施設建設工事の安全祈願祭

町発注の穀類乾燥調製施設建設工事の安全祈願祭が9月22日(木)農協集出荷施設敷地内の建設地で執り行われた。安全祈願祭には町や町議会、工事関係者、農協関係者や約30人が出席。祝詞奏上に続いて(くわ)入れの儀が行われた。

神事終了後、森町長は「農協関係の方々には施設の完成を楽しみにしていると思う。苦前町としてもしっかりと体制を組んで、個々の農家の所得が増えるように進める。万全の体制で絶対に事故のないようにお願いしたい」と述べた。

総事業費は施設建設費、備品購入費、付帯工事費など合わせて18億4800万円。来年3月末に完了する予定だ。



留萌管内PTA連合会研究大会・町PTA連合会研究大会・ふるさと教育セミナー



9月25日(日)公民館で留萌管内PTA連合会研究大会・町PTA連合会研究大会・ふるさと教育セミナーとあわせて開催され、留萌管内の児童生徒をもつ保護者約150名が参加した。

講演は写真家絵本作家の小寺卓矢さん「じつと見つめると見える〜写真絵本作家が考える、自然・いのち・子どもたち」を題材に、死がテーマだという代表作「森のいのち」「だって春だもん」を紹介、「いっしょだよ」の読み聞かせも行った。

写真絵本について「この世界は平和運動だと思ってる。大げさかもしれないが、この絵本の世界は平和な世界だと考えている」と語った。

馬の絵作品展で古丹別中学校2名が佳作受賞!

北海道では唯一の全国展、「馬の絵作品展」で古丹別中学校3年の中村聡太くんと野村優太くんが佳作に入った。

美術を指導している梅原賢伸先生(苦中)によると、「中村くんは繊細、野村くんは豪快、それぞれのプレイスタイルが絵に現れていた」と話した。

中村くんは「たてがみの立体感をだしたかったので、黄色や緑色なども使いうまく書けた」、野村くんは、草原や空の明るさなどくつきりと輝かせることが出来ました」と受賞しめていた。



早川日出利さんに創立50周年記念青少年育成運動功労者賞が渡される



公益財団法人北海道青少年育成協会の創立50周年を記念して、このほど青少年育成道民運動の推進に貢献し、顕著な成績のあった指導者として早川日出利さんに青少年育成運動功労者賞が贈られた。

早川さんは、平成16年度より指導員を努められており、苦前町子ども会育成連絡協議会長も就任されている。長きにわたり子どもの育成活動に尽力されたことが認められ、今回の受賞となった。

早川さんは「これと違って特別なことをしたわけでは無いが、今後はまちおこしなど若い力が必要なとき、次の世代をつくりあげる担い手を引き出したいと考えている」と述べた。



ファイヤー通信

秋の火災予防運動実施 「消しましょうその火その時その場所で」

期間 10月15日(土)~31日(月)まで

煙や熱を感知して、いち早く火災の発生を知らせる機器で、すべての住宅に設置が義務付けられます。10年以上が経過している場合は本体内部の電子部品の劣化が考えられるため本体または電池の交換をお願い致します。

コンロによる火災は不注意によるものが多いです。コンロを使用する際は、絶対に離れないように。また、離れる際は火を消してから離れましょう。



火事・救急は 119 番!

北留萌消防組合消防署

苦前支署
古丹別支署

TEL64-2321
TEL65-4119

健康ばんざい

「25歳から60歳の方へ」
HPV検査が始まります！

今月の担当は宮前保健師長です

今年の子宮がん検診から、
新しい検査が増えます

普通の子宮頸がん検診の
検査と何が違うの？

苦前町では、今年度から子宮がん検診にHPV（ヒト・パピローマ・ウイルス）検査ができるようになりました。対象となる条件は、左の年齢に該当する方です。

対象 平成28年度中に25歳から60歳になる女性（平成27年度に検診を受けていない方）

HPV検査は、
何のHPVか

HPVはごくありふれたウイルスで、100種類以上あり、誰でも感染する可能性があります。その中でも、ハイリスク型という14種類のHPVに感染した場合に子宮頸がんが発症しやすくなります。子宮頸がんのおよそ98%がHPVの感染によるものといわれています。このウイルスは、細胞分裂が盛んな若い年代の方ほど、感染率が高い特徴があります。

子宮頸がん検診で行っているのは、細胞診の検査です。この検査は、診察台に上がっていただき、医師が子宮頸部の状態を診察します。そのままの姿勢で、医師がヘラやブラシで子宮の頸部をこすります。検査自体は数分で終了します。たまに出血するため、検査後は生理用のナプキンをつけると安心です。

採取した細胞を顕微鏡を使って観察する検査です。今年度から始めるHPV検査は、子宮頸がんの細胞診検査に使った残りの細胞を利用して、ハイリスク型HPVの感染の有無を確認し、さらに危険度の高いHPV16型、18型の感染も確認できます。そのため、将来がんを発症するリスクを予想し、自分にあった検査時期に病院等で検査を受けることで、より早期の段階で対処することができます。

HPVの感染がわかったら、
どうしたらいいの？

もし、検査の結果が陽性の場合、精密検査や細胞診の再検査、HPVの型を調べるということになります。多くの場合、数か月毎に病院で検査を受けて経過を観察します。がんに進む兆候が見られればがんになる前の状態で治療を行います。

特に今後、妊娠・出産を控えている方は、検査を受けることで子宮を守ることができます。若い女性は検査自体に抵抗感がある方も多いため、お母さんに勧められて受ける方もいます。身近な方から、検診を勧めて子宮を守ってあげましょう。

乳がん検診は
どんなことをするのか？

乳房をレントゲンで撮影（マンモグラフィ）をします。撮影台とプラスチックの板で乳房を挟んで撮りますので、挟むときの痛みを感じる方もいます。5秒くらい、そのままの姿勢で撮影します。そのほかに、医師の診察があります。

やってみよう、自己検診！

自分で乳房を定期的に触って確認することで、がんを発見することもできます。今月の町広報誌、折り込みチラシを参考にやってみましょう。

苦前町では、子宮がん・乳がん検診（集団検診）を年1回左の日程で行います。

▼日程
平成28年12月9日（金）

▼会場
苦前町公民館
送迎バスあり

***事前申し込み必要**

詳しくは、今月の広報誌の折り込みチラシをご参照ください。

クーポン券（オレンジ色）

を6月に受け取っている方は個別検診として北海道立羽幌病院にて検査を受けることもできます。

クーポン券送付時に同封している検診の受診方法を御確認いただき、ぜひ、検診に御利用ください。

町の検診だけでなく、病院や人間ドッグなど機会はいろいろあります。上手に利用して身体のメンテナンスをしましょう。

■お詫び■
平成28年11月の特定健診等のチラシについて、受付時間の記載に誤りがありましたので訂正いたします。

誤⑤午後10時～10時半
正⑤午前10時～10時半

*10月31日まで申込み受付中です。

平成29年3月31日までに30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳になる女性の方
5年に一度のチャンスです！！

骨の骨密度（スカスカ具合）
が測定できます

実施日程：平成29年2月28日（火）
までの診療日

会場：JA苦前厚生クリニック
検査方法：腕の骨にX線をあてて、骨密度を測ります。

お申込み先：事前予約が必要です。
骨粗鬆症治療中、定期検査中の方は対象になりません。

直接JA苦前厚生クリニックにお電話を（☎0164-65-3535）

お問い合わせ：保健福祉課けんこう係
☎0164-64-2215